



梶原 一美 議員

梶原 広川町の都市計画マスタープランにある小学校を地域の拠点とした方針は、上広地区の人口減少の歯止めには有効か。
町長 豊かな自然環境や、国道3号バイパスが計画されている。上広地区の強みを生かしたまちづくりを進めたい。定住に求められる地域とは、学校、商店、病院などの日常生活に必要な施設が備わっている地域、あるいは、そうした地域へ短時間でアクセスできる利便性の高い地域であると考えている。今後、計画されている国道3号バ

地域振興

A

豊かな自然環境、国道3号バイパス計画など上広地区の強みを生かしたまちづくりを進めたい

Q

上広地区の都市計画について問う

イパスを活用し、そうした機能を確保することは、人口減少対策に有効な手段と考えられる。しっかり取り組みたい。
梶原 バイパスの開通と道の駅は完成まで相当な期間がある。その間の中心的な振興策は何か。
町長 定住化を目的とするには災害に強い地域でなければならぬ。自然災害から地域を守るための様々な施策を国、県と連携しながら進める。また、上広川校区は山林地域が非常に多い。土地活用が難しい所だが、自然環境を生かした地域づくりが必要だと考えている。



子ども支援

A

支援を要する児童・生徒やその家庭に対し、課内で連携し対応できた

Q

子ども課の組織の成果と課題について問う

梶原 庁内が新組織になって約1年が経過したが、子ども課の成果と課題について伺う。また子ども課の今後の運営方針はどうか。

教育長 子ども課の新設により就学相談、小・中学校在学中の要保護児童・生徒への対応など、支援を要する児童・生徒やその家庭に対し、子育て支援係と学校教育係が小・中学校とも強固に連携し対応することができた。役割や責任が分散することなく、課題に迅速に対応できた。今後は子育て支援係と学校教育係が一体となつて、幼稚園や保育所、学校、児童相談所や警察とも連携し、あらゆるケースに取り組んでいく。
梶原 組織の改編としてこどもまんなか推進室が設置されるが、教育大綱や教育施策にどう



反映するのか。
教育長 広川町総合教育会議の中で教育施策を策定したが、具体的にこどもまんなかプロジェクト、こどもまんなか推進室という文言は出てきていない。関係課と一体的に推進すべき施策であり、こどもまんなか推進室が中心となつて横断的、全庁的に取り組む。